

## 新城市こども園再編・整備計画検討委員会記録簿

第 2 回			追 番		1/4頁
発注者名	新城市	受託者名	株式会社 長大		
件 名	新城市こども園再編・整備計画検討委員会		整理番号		
出席者	検討委員	学識経験者 佐野氏（座長） 有識者 中谷氏、阿部氏 地域協議会会長 山下氏、山本(孝)氏、牧野氏 保護者会役員 南澤氏 市職員 夏目氏、山本(美)氏、 佐々木氏、城所氏	日 時	R5年11月22日(水) 19:00~20:30	
	こども未来課	中山課長、井口副課長、森下氏			
	受注者側	長大：浅井、井伊、今田	場 所	新城市役所 4階第1会議室	
			打合せ方式	会議	
配布資料	(事前配布資料) 次第、前回の議事録、検討委員名簿、説明資料				
(発言者)	1. 本計画および検討委員会の趣旨説明				
(事務司会)	(1) 開会宣言 本検討委員会の注意事項の説明を行った。 原田氏、加藤氏は欠席との連絡があった。				
(事務局)	(2) 前回の振り返り 計画検討支援業務受託者である(株)長大が前回の議事概要を説明した。				
(事務局)	2. こども未来課からの説明 (1) 市民アンケート結果・市民ワークショップ結果・課題の整理・実施方針 資料2の「市民アンケート結果」「市民ワークショップ結果」「課題の整理」「実施方針」を説明した。(P4~26)				
(委員)	アンケートとワークショップでは、現在こども園を利用している親、利用を経験した30代の親など若い世代の意見を聞いているのか。 年配者ばかりでなく実際にこども園を利用している若い世代の意見を聞いてほしい。				
(事務局)	アンケートでは未就学児がいる家庭を中心に意見を聴取しており、全体の60%が30代以下、80%が40代以下と若い世代が回答者のほとんどを占めている。 ワークショップ参加者は中学生から80代まで幅広い年齢層であった。				
(委員)	アンケートの結果がより重視すべき若い世代の意見に近いと理解した。				
(事務局)	(2) 拠点園の選定 資料2の「拠点園の選定について」の説明を(株)長大が行った。(P27~31)				
(委員)	比較表において大野こども園の駐車場の評価が▲であるのは納得がいかない。 現在の駐車場はこども園用地ではないが市の土地であり、車通りも少なく安全で広さも十分である。統廃合したいが為に意図的に評価を下げていないのか。				
(事務局)	駐車場の評価は広さのみでなく、園から駐車場への見通しも考慮している。 大野こども園は駐車場から園までの道が一部狭くなっており、見通しが悪いため評価を下げた。評価については今後再検討する。				
(委員)	比較表は物理面を踏まえたもので、アンケートを出した皆さんの思いはこの中に反映していないのではないのか。 アンケートの中で意見の多かった通勤経路や家からの近さを加味した加点点評価等は検討していないのか。				
(事務局)	アンケートの結果をすべて反映するのは難しい。				

	<p>集団の学びが確保できるのか等も加味し総合的に検討している。</p>
(委員)	<p>拠点園に集約していく前提で検討が進んでいる。拠点園のメリットをもっと打ち出し、市民が納得できる説明としてほしい。 アンケートやワークショップがガス抜きでしかなかったように感じる。</p>
(事務局)	<p>メリットとして拠点園では保育サービスを集中できることを想定している。 保育士が分散している現状があり、分散を解消することで保育士の効率化ができる。</p>
(座長)	<p>拠点園の提示の仕方を上手くしてほしいというご意見であったと理解している。地域の光であるこども園が無くなることに対して、地域の方には大変な寂しさがあると思う。 一方で保育士の減少は危機的である。都市に好条件の就職先があり田舎の保育士たちが奪われていく現状がある中、保育士確保は新城市全体で考えなければならない課題である。</p>
	<p><b>(3) 再編・整備計画</b></p>
(事務局)	<p>資料2の「再編・整備計画」についての説明を(株)長大が行った。(P32~35)</p>
(委員)	<p>グラフの見方を再度説明してほしい。</p>
(事務局)	<p>グラフの数字は保育士一人当たりの園児数を示しており、再編しない場合と再編する場合の保育士一人当たりの園児数を比較している。再編した場合、全体として前頁で示した目標値である「保育士一人当たり園児10~20名」という理想の状態に近づく。</p>
(委員)	<p>集団の学びに必要な保育士一人当たり園児数をどう設定したのか。 少人数保育を希望するアンケートの意見と矛盾が生じているのではないか。</p>
(事務局)	<p>こども園設立時に現場の保育士の方などが検討した人数規模を参考としている。 この数値は国の基準と比較すると少人数で新城の特徴を反映したものとなっている。</p>
(委員)	<p>保育士目線でも、より少人数であるほうが子どもに目が届きやすいのではないか。</p>
(座長)	<p>子どもたちの成長において集団の中でしか育たない力がある。本来であれば15名程度同じ年齢の子がいる状態が望ましい。</p>
(委員)	<p>自身はこども園の設立時にどういった集団規模が良いかを検討したメンバーである。 国の基準は一人ひとりを重視する保育とするためには難しいことから、地域のこども園・保育園・幼稚園を実際に見たり、調査をしたりして、新城市の実情に合わせ設定した。 子どもたちにとっても、保育士のクラス運営上も適した規模とするために国の基準より少なくしている。 一方、現状で既に4・5歳児合わせて10人という園があり、少人数化は判定基準以上に進んでいる。 アンケートのご意見にある少人数が何名程度を指すのかが明確でないため分かりづらくはある。</p>
(委員)	<p>小学生も減少しているが、こども園も小学校以上に存続が危ういと感じている。 一方、こども園が無くなると移住して子育てしようという人がいなくなることに危機感があり、その観点から意見を出している。 アンケート結果はまとまっているが、説得力を持たせるために、再編・整備計画の説明には見直しが必要かと思う。</p>
(委員)	<p>旧耐震基準の園に園児を通わせ続けることとなる。園児の安全を考えたときに、東郷地区・千郷地区の再編は前倒しできるのか。</p>
(事務局)	<p>東郷東こども園は療育の機能移転を行う必要があり、その改修工事を鑑みると令和8年度の再編が最短と考えられる。</p>

(事務局)	<p>千郷地区は建替えが必要だと考えており、新たな園用地確保・建設など踏まえると最短で令和 10 年に建設、令和 11 年に移転・運用開始と考えている。</p> <p>ただ今後 5 年以上の間、旧耐震基準の園舎で園児が生活するのは課題である。</p> <p>園児数推計を見ると令和 7 年度に千郷中こども園に通う園児を千郷東・千郷西こども園に分散させることは可能である。</p> <p>千郷西こども園も一部旧耐震であり、急傾斜地に近接しているが、千郷中こども園と比較すると条件が良い。</p> <p>よって千郷中こども園も鳳来地区の再編と同時期に集約するという事も検討している。</p> <p>このことについてご意見があれば伺いたい。</p>
(委員)	<p>千郷地区は 50 年近く前は 2 園であったこともあり、新城の財政規模も踏まえると、千郷地区にこども園は 2 園で十分だと考えている。</p> <p>親の送迎負担増は課題である。</p>
(委員)	<p>地域性に配慮する必要がある。地域によってこども園を残してほしいか、そうでないか差があるため、特に機能移転とした地区の住民の意向をもっと聞くべきである。</p> <p>市で再編の方針を決めても、地域の方の協力を得て残せるのか、細かく各地域で検討すべきである。</p> <p>地域のことを考えながら検討を進めて頂きたい。</p>
(委員)	<p>千郷地区は 2 園でよいと感じている。未就園児が遊べる場所が少ないため、再編に合わせて、1 園に子育て支援センターを併設できるとよい。</p> <p>新たなサービスに対するニーズへの対応も今後の課題である。</p>
(委員)	<p>利用者のニーズは様々で、一時保育・療育・病児保育のニーズがあることや、未満児も就園率が高いことを踏まえ、既存のこども園の在り方だけでなく新たなサービスも考えていくべきである。</p>
(委員)	<p>未就園児の一時保育の希望も多いが、利用希望を断っている現状がある。</p> <p>未就園の子どもを預かることができる園があってもよい。</p>
(委員)	<p>小学校の統廃合協議に関わったことがあるが、昔から地域にいる方と現在の保護者の意識に差があり、地域の方は無くしたくない一方、保護者は集団での育ちを希望していることを感じた。</p> <p>市内でも市街地と、市街地から離れた地域とで違いがあり、各地域に密着したアンケートを取った方が良いのではないかと感じている。</p> <p>地域の方がどんな意見を持っているのかについても資料にまとめて欲しい。</p>
(委員)	<p>集団の保育が大切という意見も、自分の地区の園が無くなるのが寂しいという意見も両方理解できる。</p> <p>根本的には産婦人科が無いなど、こども園以前の子育て環境を改善しないと移り住む人がいないと思う。</p>
(委員)	<p>人口・市の財政を考えると再編・整備に大筋では賛成だが、どう地域に説明するのかについては再編のメリットをもっとアピールした方がよい。</p> <p>再編する地域のフォローも必要である。送迎に車が必要な人と、歩いて行ける人との格差が大きい。</p> <p>市民の納得できるような答えが出ると良い。</p>
(委員)	<p>再編は積極的に進めるべきで、要安全対策の園の再編は少しでも前倒しして欲しい。</p> <p>議員との協力も必要である。</p>

(事務局)

3. 次回の開催日

日時：2月22日（木）19：00～

会場：新城市役所本庁舎（詳細は資料配布と合わせて連絡予定）

以上